筑波大学附属図書館における展示活動

大久保明美・篠塚富士男

はじめに

筑波大学附属図書館は，地域に開かれた大学図書館として1995（平成７）年以降，毎年展示会を開催し，2014（平成26）年にその活動は20年目を迎えた。本稿ではこれまでの展示会の概要と実施の方法を紹介するとともに，今後の展示会活動の課題について考える。

中央図書館における特別展・企画展について

1995年６月に中央図書館新館が増築され貴重書展示室が設けられ，これを機に展示会を開始した。貴重書展示室での展示は，通年展示の「常設展」と原則として年１回行われる「特別展・企画展」に分けられている。

常設展は「日本の出版文化」と題し，古代から近現代までの流れを時系列で概観するもので，適宜展示替えを行いながら通年で展示している。

一方，特別展・企画展は，貴重資料を広く公開することによって資料への興味を喚起し，それが図書館資料の活用へとつながることを主要な目的として，毎回固有のテーマを設けて開催している。展示会は，展示そのもの以外に，冊子体の展示図録と電子展示の公開という三つの活動が一体となって全体を構成するというスタイルをとっている。このうち電子展示については，展示内容を再現するということではなく，通常の展示では提供できない新たな情報を付加して公開することを目指しているが，これらが当初からのコンセプトとして現在に至るまで維持されており，当館の展示会の特徴となっている。なお，特別展は附属図書館と学内の教員組織等の共催によるもの，企画展は附属図書館の企画によるものである。それぞれの開催については2005（平成17）年に設置された附属図書館研究開発室のプロジェクトと連携して実施している。

展示の実際：展示ワーキンググループの役割

特別展・企画展を開催するにあたり，館内にワーキンググループ（以下WGと呼ぶ）を設置している。副課長（主査），古典資料担当（総合事務），電子図書館担当（電子展示）を中心に，メンバーは８名程度とし，展示に関する企画力・知識・スキルの習得と経験の伝承のため毎年半数程度は入れ替えることとしている。展示会開催までには約５か月程度を要し，WGにおいて関係教員と協力しつつ，概ね以下のような順序で作業を進める。

①　企画立案

展示のテーマ，タイトルを決めて，全体の構成と展示する資料を選定する。特別展の場合は教員の指示によるが，企画展の場合は，WGメンバーが中心となり企画立案を行う。

②　資料撮影

展示および図録掲載候補資料選定後，資料の撮影を行うが，環境の違いによる写真の色彩の微妙なずれを避けるため，撮影はできるだけ集中して行う。またすでに電子化したデータがあれば，それも利用する。

③　ポスター・チラシ作成

写真撮影後，展示する資料を参考にポスター等のデザインを作成する。テーマにちなむデザインとし，チラシの裏面には展示資料の概略なども記載する。WGの担当者がデザイン作成に着手してから最終決定までには１か月程度を要する。

④　図録作成

原稿の取りまとめから，全体の構成・デザインまでを行うが，企画展の場合は解説原稿もWGメンバーで執筆している。原稿，写真の組版・版下作成はWGの担当者がDTPにより編集し，入稿原稿を完成させている。原稿の取りまとめと編集作業で２か月，印刷所への入稿から納品まで１か月と，図録の完成までには約３か月程度を見込んで

いる。図録作成については，WGで版下を作成するようになってからは，印刷経費・納期ともに大幅に縮減されている。

⑤ 電子展示

ホームページの作成と電子版（PDF）図録の作成は必須としているが，それ以外の企画はWGで必要に応じて自由に行っている。ブログやFacebook，Twitter等も活用し，展示作業風景や展示会場内の様子など，ホットな話題も発信している。

⑥ パネル・キャプション作成

展示会場内のレイアウトを進める上でパネル・キャプションの作成は重要な作業である。看板，挨拶文，解説，写真，参考資料などは大判プリンターで印刷しパネルに貼付する。また展示資料にはそれぞれにキャプションを作成する。これらのデザイン・印刷はWGの担当者が行うが，作成実務はWGメンバー全員が協力して行っている。これは実際の展示に直結する作業であり，会場内の印象を左右する，センスを問われるものである。

⑦ 講演会・ギャラリートーク

展示期間中に開催される教員による講演会・ギャラリートークの準備として，配布資料の用意，会場の設営を行う。また，来場できない方のために，これらの様子をビデオ撮影し，字幕等の編集を行ってYouTubeで公開しているが，これは図書館の立場からは動画による記録を残す，という意味も持つ。

⑧ 展示

常設展を撤去し特別展に模様替えするため，1週間程度貴重書展示室を閉室して作業を行う。展示室は新館1階にあるため，本館2階の入口から展示会場への誘導表示，大型看板なども作成し設置する。展示ケースには，展示会の構成にしたがって，資料およびキャプションを並べ，展示室壁面は関連する解説・写真等のパネルが配置される。資料・パネル等の配置については，展示室内の構成や雰囲気などを考慮し，最良の展示になるように，ぎりぎりまで調整が行われる。

②～⑧の作業は，基本的にはWG内で複数分担制をとっており，業者への外注はポスター・チラシ・図録の印刷のみである。さらに，広報および会期中の土日祝日開館の対応などもWGメンバーで行っている。

今後の展示会活動について

大学図書館における展示会活動は，展示会観覧者にとっては資料を活用した啓蒙活動，図書館や大学にとっては地域貢献を踏まえた広報活動，図書館職員にとっては企画力や専門的知識を得る機会としての人材育成活動，と多様な意義を見いだすことができる。当館ではこうした考え方により特別展・企画展を実施してきたが，常勤職員の減少による業務量の増加などを考慮すると，WGが中心となって実施までに5か月程度を要する現在のスタイルが継続できるかどうか，改めて検討する必要があるだろう。しかし，展示の意義の重要性を考えると，館内のオープンスペースで頻繁に実施されている学習・研究活動等に関する展示等を含め，特別展・企画展のみにこだわらず「魅力的な展示」を目指すという当館の姿勢は不変であり，今後も様々なチャレンジを行っていきたい。

なお，今年度の特別展「数学の叡智」は，9月28日から開催される。



参考文献

http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/collection/exhibition（筑波大学附属図書館電子展示）

篠塚富士男．筑波大学附属図書館における展示活動．私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会資料．2014

（おおくぼ あけみ：筑波大学附属図書館，
しのづか ふじお：元筑波大学附属図書館）

[NDC 10：017.7 BSH：1. 展示 2. 筑波大学附属図書館]